

大和郡山市と水害

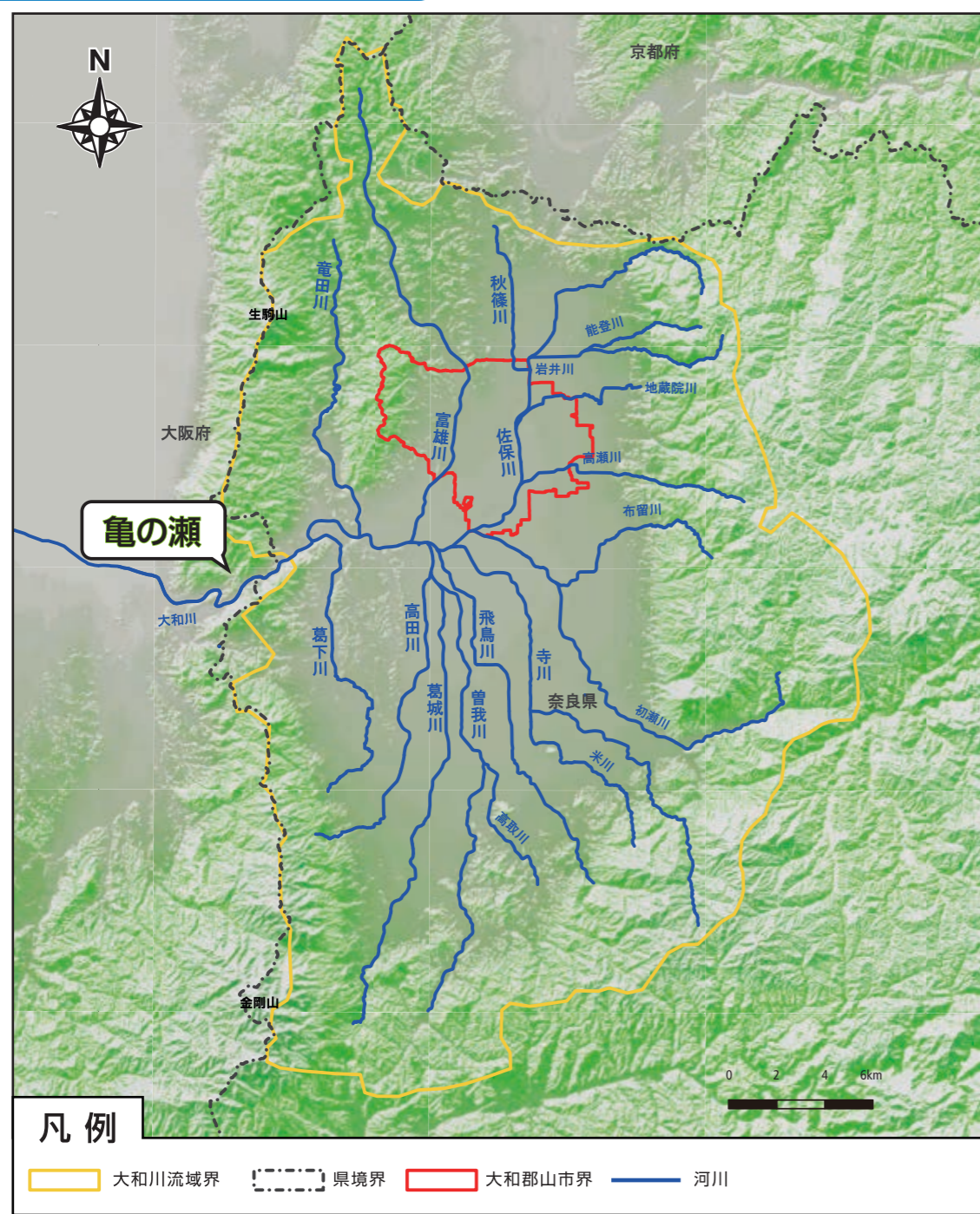
大和郡山市の地域特性

大和郡山市ってどんな場所？

大和郡山市が位置する奈良盆地は、河川が放射状に広がっており、すべての水が大和川に集まるため、水がつまりやすく、洪水が起こりやすい地形です。

また、奈良盆地から水が抜ける唯一の場所である**亀の瀬**は、狭く、地すべり多発地帯のため、もし地すべりが発生してしまうと、大和川がせき止められ、奈良盆地全体がダムようになってしまいます。このように奈良盆地では、ひとたび台風や豪雨が起きれば、甚大な被害が発生するおそれがあるのです。

大和郡山市を取り巻く主な河川



災害を「知る」

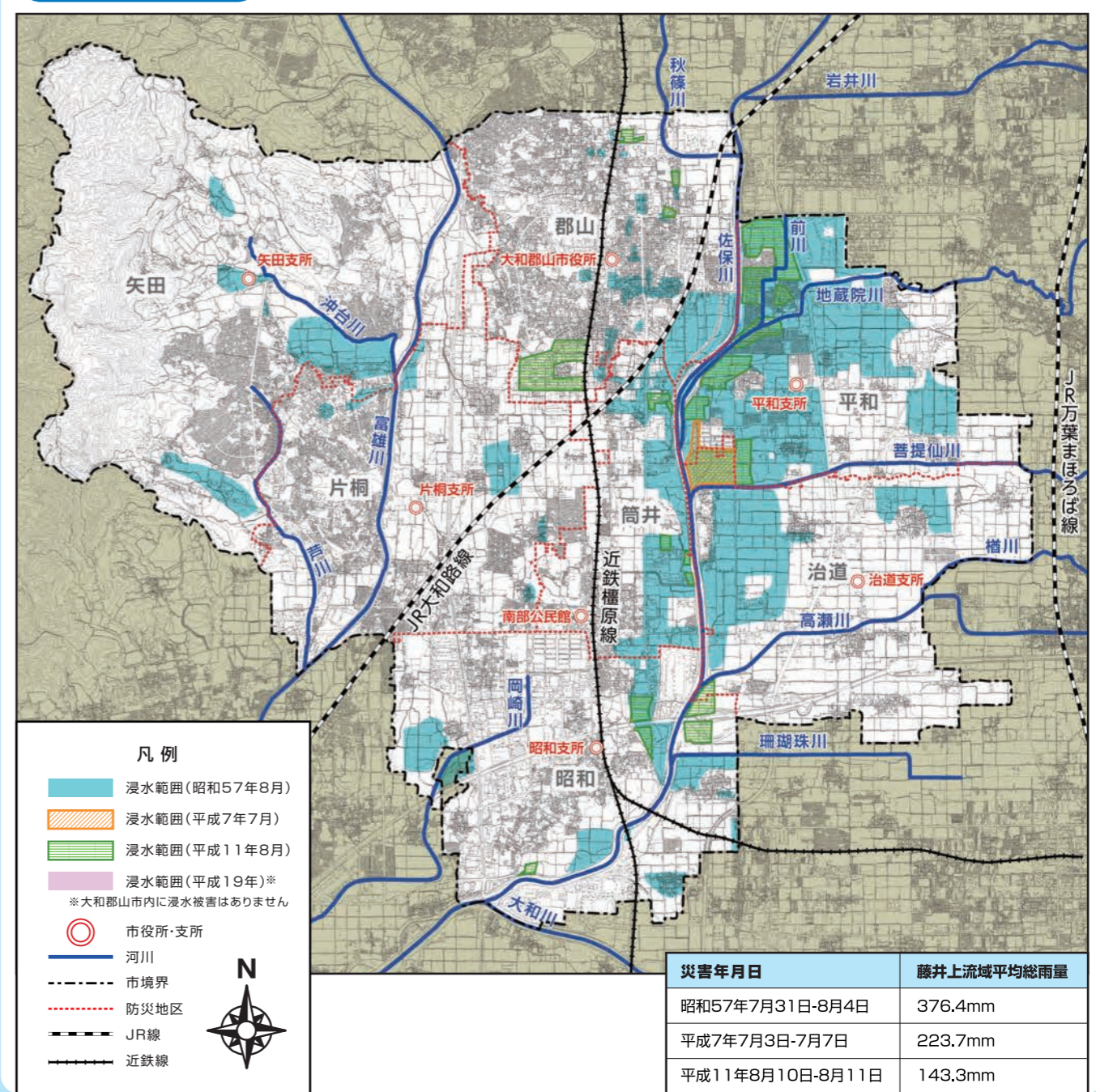
大和郡山市で起きた過去の水害

過去の災害に学び、これからの災害に備えましょう

大和郡山市で起こった浸水被害のうち、特に被害の大きかった浸水範囲を図示しました。過去の浸水被害は、道路側溝が雨水でいっぱいになりあふれた場合や、洪水で河川の水位が高いために、小河川や水路などから排水できずにあふれ出した雨水によって起こっています。これを**内水（河川に排水できずにあふれた水）はん濫**といいます。大和郡山市では、特に佐保川付近で被害が多く見られます。

日ごろから身近な道路側溝の清掃をしたり、**大雨時には河川や水路に近づいたりしないように**してください。

浸水実績図



出展：大和川流域浸水実績図

災害の基礎知識 (大雨・洪水)

大雨洪水に関する注意報と警報

気象情報を入力して早めに避難の判断を

災害が発生するおそれがある場合、気象庁から「注意報」「警報」「特別警報」が発表されます。テレビやラジオ、インターネットなどでこまめに最新の気象情報をチェックしましょう。

危険度	種類	予想される災害
低 ↓ 高	注意報 大雨注意報	浸水被害や土砂災害が発生するおそれのあるときなど
	注意報 洪水注意報	河川の増水やはん濫、堤防の損傷や決壊による災害のおそれのあるとき
	警報 大雨警報	重大な浸水被害や土砂災害が発生するおそれのあるときなど
	警報 洪水警報	河川の増水やはん濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害のおそれのあるとき
	大雨特別警報	数十年に1度の大雨などが予想され、重大な浸水被害や土砂災害が発生するおそれが著しく高いとき

特別警報ではただちに命を守る行動を！



※「特別警報」が発表されない場合でも、甚大な被害が発生するおそれがあります。

1時間に降るおよその雨量とその強さ

被害を少なくするために雨の強さと怖さを知っておきましょう

気象庁が発表する1時間の雨量と雨の降り方を知り、災害の危険性がどれくらいあるのか考えてみましょう。

10～20mm未満	20～30mm未満	30～50mm未満	50～80mm未満	80mm以上
雨の音で話し声がよく聞こえず、一面に水たまりができます。この程度の雨が続きときは警戒が必要です。	傘をさしていてもぬれてしまいます。車のワイパーを早くしても見づらく、小規模な崩れが始まります。	バケツをひっくり返したような雨です。道路が川になります。	滝のようにゴーゴーと降ります。傘は全く役に立たなくなります。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。大規模な災害のおそれがあるので厳重警戒が必要です。



災害を「知る」

内水はん濫と外水はん濫

洪水の発生するしくみや種類を知っておきましょう

洪水には降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなるにより起こるはん濫(内水はん濫)と、河川の堤防が壊れたり水があふれたりして発生するはん濫(外水はん濫)があります。違いを知り、避難所などまで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。



その場で雨が降っていないなくても、河川の上流で降った大雨により、下流ではん濫が発生することがあります。

河川の水位と避難の目安

洪水に関する河川の水位情報を入力してみよう

それぞれの河川に設置された水位計や河川カメラの情報は、インターネットにより、リアルタイムで見ることができます。

大和郡山市では、河川の水位や今後の降雨予報などを総合的に判断し、緊急速報メール(エリアメール)などを利用して、避難勧告などを発令しますので、発表される情報には十分注意しましょう。

【役立つ！検索ワード】

指定河川洪水予報 検索

国の洪水予報 検索

国の水位計とカメラワード 検索

川の水位情報 検索

県カメラワード 検索

県の水位計 検索

奈良県 河川カメラ 検索

奈良県 水位 検索

警戒レベル	はん濫発生!!	はん濫発生情報	避難勧告、避難指示(緊急)を発令する目安
レベル5	はん濫発生!!	はん濫発生情報	避難勧告、避難指示(緊急)を発令する目安
レベル4	はん濫危険水位	はん濫危険情報	避難準備、高齢者等避難開始を発令する目安
レベル3	避難判断水位	はん濫警戒情報	避難準備、高齢者等避難開始を発令する目安
レベル2	はん濫注意水位	はん濫注意情報	水防機関が活動する目安
レベル1	水防団待機水位		水防機関が水防活動のため待機する目安

大和郡山市の洪水予報河川：大和川
水位周知河川：大和川、佐保川、富雄川、秋篠川、地藏院川、高瀬川
水防警報河川：大和川、佐保川、富雄川、秋篠川、地藏院川、高瀬川

災害の基礎知識 (土砂災害)

土砂災害の種類と前兆現象

土砂災害の種類や前ぶれを知って、命を守ろう

大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ、**がけ崩れ**や**土石流**、**地すべり**といった土砂災害を引き起こすおそれがあります。下記のような前兆現象に気付いたら、周囲の人にも伝え、速やかに避難するとともに大和郡山市までご連絡ください。

土砂災害の種類

がけ崩れ (急傾斜地の崩壊)

急な斜面が、大雨などの水分がしみ込むことによってゆるみ、突然崩れ落ちる現象です。**崩れ始めてから崩れ落ちるまでの時間が短い**ため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、人命を奪うことが多い災害です。



土石流

谷や溪流から、**土砂や石、木を含んだ濁流が、一気に下流へ押し流される現象**です。時速 20km ~ 40km という速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまうこともある災害です。



地すべり

比較的広い範囲にわたり雨を含んだ土地が、水の力によって持ち上げられ、**ゆっくりと動き出しすべりおちる現象**です。移動する地面の量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。



こんな前兆現象にご注意ください

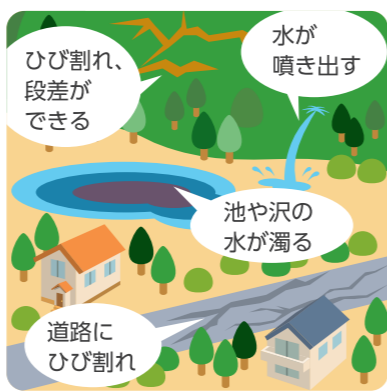
がけ崩れの前兆現象



土石流の前兆現象



地すべり前兆現象



これらの現象が前兆現象のすべてではありません。前兆現象がない場合でも土砂災害が発生することもあるので、避難情報を確認し、**早めの避難**を心がけてください。

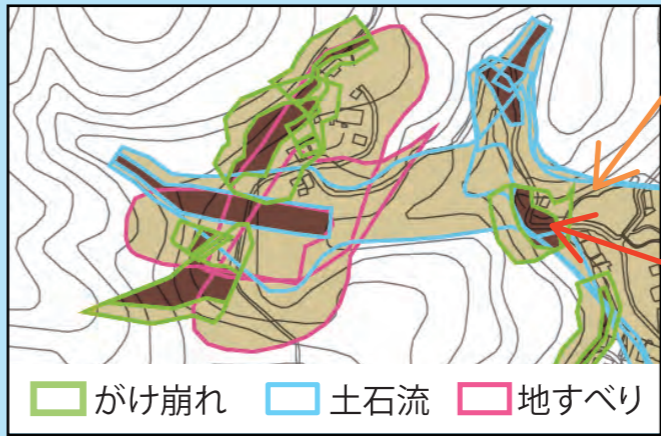


災害を「知る」

土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域

住んでいる地域の危険度を知っておこう

奈良県では土砂災害防止法に基づき、土砂災害の危険性がある箇所を「**土砂災害警戒区域**」と「**土砂災害特別警戒区域**」に指定しています。**区域に指定されていないところであっても土砂災害のおそれがあるので、どんな場所が危険かを知り、土砂災害に備えましょう。**



土砂災害警戒区域 通称：イエローゾーン

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれのある区域です。

土砂災害特別警戒区域 通称：レッドゾーン

イエローゾーンの中で、建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれのある区域です。

土砂災害警戒情報と土砂災害の危険度分布

土砂災害から身を守るために確認しましょう

土砂災害の危険を知るため、様々な情報が提供されています。大雨が続いたときには下にあるような情報も確認しておきましょう。

土砂災害警戒情報とは

大雨警報（土砂災害）の発表中に、土砂災害発生の危険度が高まったとき、奈良県と奈良地方気象台が共同で発表する情報です。この情報は避難が必要な**警戒レベル4**（※詳しくは10ページ）に相当します。

「大雨警報（土砂災害）危険度分布」(土砂災害警戒判定メッシュ情報)

大雨の気象情報が発表されたときに、実際どこで危険が高まっているのかを把握できるように、地図上で危険度の高まりを5段階に色分けして表示したものです。

【役立つ！検索ワード】
土砂災害の危険度分布 🔍 検索

「奈良県 土砂災害・防災情報システム」について

奈良県土砂災害・防災情報システムは、奈良県と奈良地方気象台が共同で発表する「土砂災害警戒情報」を補足する情報として、リアルタイムでの土砂災害発生危険度等を提供しております。みなさんの警戒避難に役立つ情報を提供しています。

【役立つ！検索ワード】
奈良県 土砂災害防災情報システム 🔍 検索

入手できる主な情報

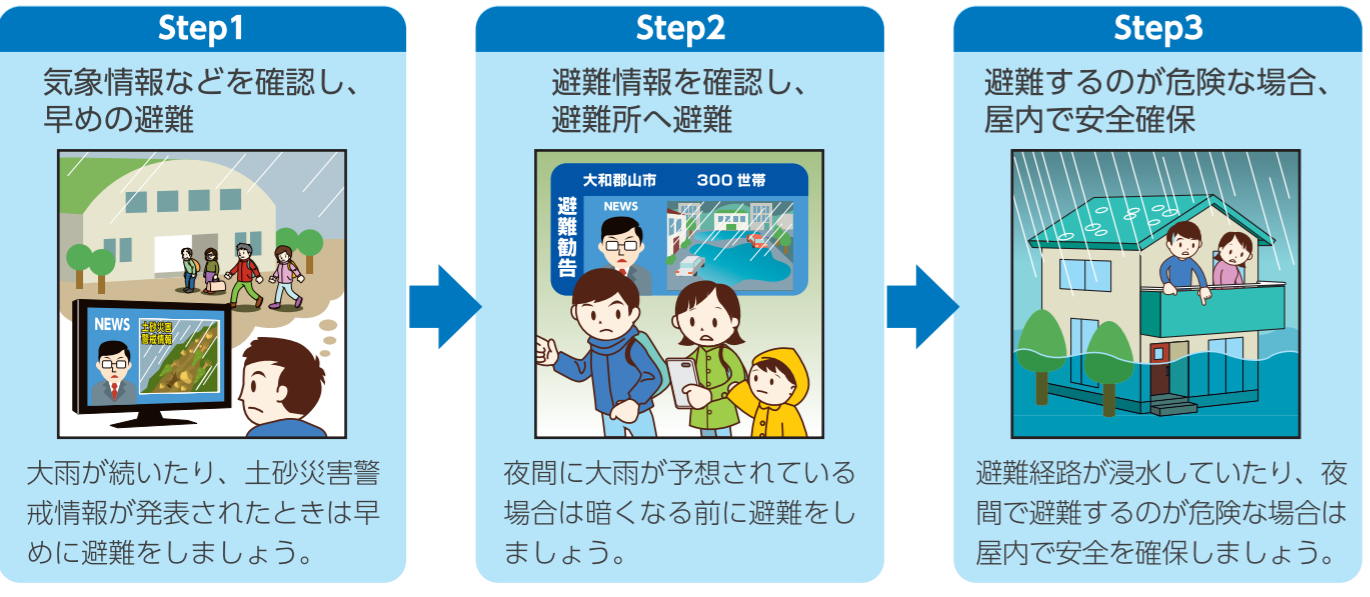
- ・大雨に関する気象情報の発表状況
- ・県内の雨量状況
- ・県内の土砂災害危険度情報(1kmメッシュ、5kmメッシュ、地区別(旧村・大字など))
- ・土砂災害警戒区域等の指定状況

避難の判断

自分の判断で避難行動をしましょう！
危険を感じたらすぐ避難！



避難の判断ポイント



避難行動の種類

状況に応じて避難の方法を判断しましょう

指定避難場所や安全な場所へ移動する避難行動を「**立ち退き避難**」、屋内にとどまる避難行動を「**屋内安全確保**」といいます。無理な避難行動はできるだけ避けましょう。

災害では早めの避難が重要ですが、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での避難行動は大変危険です。そのような場合は避難情報が発令されていても、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所での屋内安全確保をして救助を待つという判断も必要です。特にはん濫時の避難や夜間の立ち退き避難は非常に危険である事を覚えておきましょう。

基本の避難行動

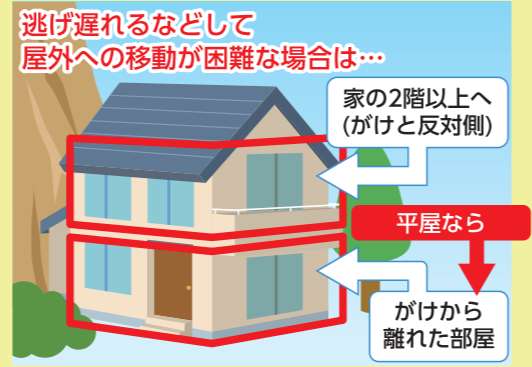


逃げ遅れた場合 (大雨・洪水)



土砂災害からの逃げ遅れ

土砂災害による被害の多くは木造建物の1階で被災しています。土砂災害の危険性がある場合、どうしても避難場所への避難が困難なときは、**がけから離れた部屋の2階などに避難**しましょう。



? 災害を「考える」

避難情報の種類

とるべき行動を確認しましょう

近年相次ぐ水害での被害を受けて、避難情報の伝え方が変わり、これまでの避難情報と共に警戒レベルを用いた情報が発令されます。逃げ遅れがないように、大和郡山市からの情報に注意して早めの避難を心がけましょう。

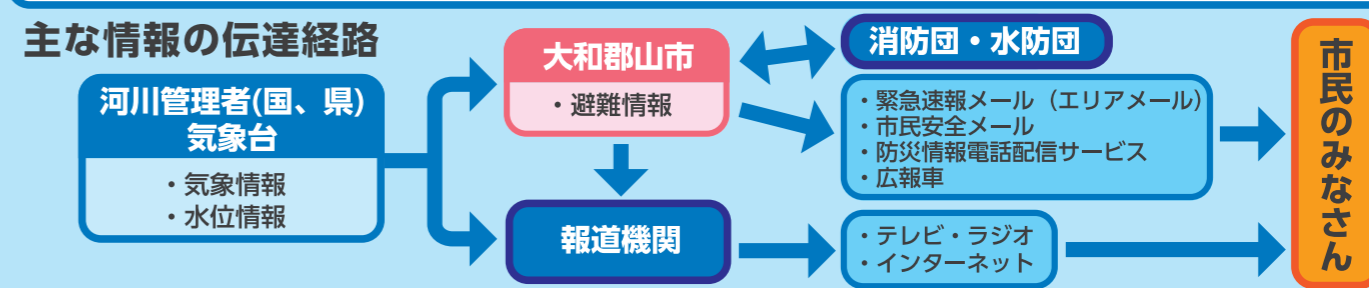
警戒レベル	避難情報	発令時の状況	みなさんがとるべき行動
レベル1	早期注意情報 (気象庁が発表)	警報級の現象が5日先までに予想されている状況です。	・災害への心構えを高めましょう。
レベル2	大雨・強風注意報 洪水注意報等 (気象庁が発表)	災害が起こるおそれがある状況です。	・避難に備え、ハザードマップなどを再確認し、自らの避難行動を確認しましょう
レベル3	避難準備・高齢者等避難開始 (市が発令)	災害発生のおそれがある状況です。	・避難の準備を整えましょう。 ・避難に時間のかかる方(高齢者や乳幼児など)とその支援者は避難を開始しましょう。
レベル4	避難勧告 (市が発令)	災害発生の危険性が高い状況です。	・速やかに避難を開始しましょう ・避難場所への移動が危険な場合は近くの安全な場所や屋内で安全確保しましょう。
	避難指示 (市が発令)	災害発生の危険性が非常に高く、危険が迫っている状況です。	・避難を完了していない場合はただちに避難を完了しましょう。
レベル5	災害発生情報	災害が実際に発生している状況です。発令されないこともあるので、注意しましょう。	・すでに災害が発生しています。命を守るための最善の行動をとりましょう。

警戒レベル4までに全員避難！

避難情報の主な情報伝達の流れ

様々な避難の呼びかけに注意しましょう

集中豪雨など局地的で突発的な異常気象の場合には、大和郡山市からの避難情報が間に合わないこともあります。そのためにも、自ら情報を収集し、身の危険を感じたら避難所などの安全な場所へ避難をしましょう。



水害からの避難

避難の心得

「まだ大丈夫」という自己判断は禁物！

日ごろから必要なものを用意しておくとともに、避難の手順について家族で相談しておく、いざというときあわてずに行動できます。動きやすく安全な服装での避難を心がけ、単独行動はしないようにしましょう。

避難の呼びかけに注意

テレビやラジオ、広報車からの避難情報を聞き逃さないようにしましょう。



状況次第で自主避難

雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険や不安を感じたら早めに自主的に避難しましょう。



2人以上での避難

避難するときは、周囲と協力し合い、単独行動はとらないようにしましょう。



車での避難は控えて徒歩で

車での避難は、浸水による故障、交通渋滞などの二次災害をまねくおそれがあります。避難は原則徒歩で行いましょう。



避難は動きやすい服装で

マンホールや側溝などの水路に注意しながら避難しましょう。水や泥が入り歩きづらくなるため、長靴は危険です。運動靴を履きましょう。



浸水前に避難しよう

浸水してからの避難は大変危険です。無理をして避難施設に行かず、屋内の安全な場所に緊急的に避難しましょう。



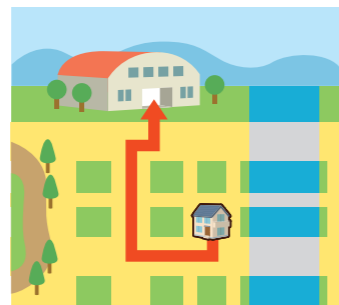
荷物は最小限に

非常持ち出し品は、リュックサックにまとめて、両手は自由に使えるようにしておきましょう。（※詳しくは 49 ページ）



安全なルートを使って避難

避難場所へは、川べり、橋、地下道や、土砂災害のおそれがある区域などを避け、できるだけ安全な広い道で避難しましょう。



災害時要配慮者の避難に協力

高齢者や障害者、こどもなどは早めの避難が必要です。みんなで協力して避難しましょう。（※詳しくは 48 ページ）



? 災害を「考える」

避難時の注意点

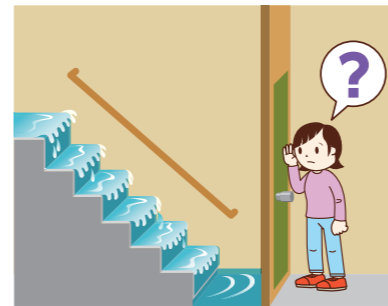
大雨の際の様々な危険を想像しておきましょう

大雨や洪水が起き、避難するときには普段は気付かない危険な場所があります。危険な場所を把握し、注意しながらの避難を心がけましょう。

地下空間に注意！

大雨のときには地下室などの地下空間は真っ先に水が流れ込んできます。停電や冠水の危険性が高いため、早めの避難が必要です。

地下室では外の様子がわかりません



水深 20cm でも水圧でドアが開きません



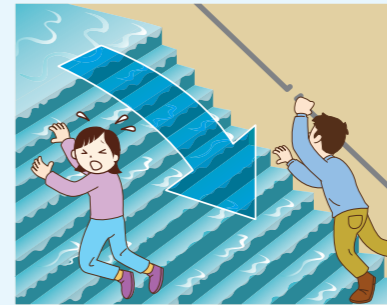
地上が冠水すると一気に水が流れ込みます



浸水すると電気が消えエレベーターは止まります



水が大量に流れ込むと脱出が困難になります



大雨のときは地下空間の利用を控えましょう



アンダーパスに注意！

アンダーパスとは、道路や鉄道などが立体交差する場合、その下を通る地下道のことをいいます。

大雨、洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に浸水します。地域のアンダーパスの場所を把握し、普段通るのであれば、もしものときに備えてう回路を考えておきましょう。



台風が接近してきたら

たとえ避難勧告が出ていなくても、早めに安全な場所へ避難するなど自分たちの身は自分で守る意識を高めましょう。

水路の見回りは絶対にやめましょう

増水した水路は道路との境目がわからなくなっていて、足を取られるおそれがあります。

屋外での作業は絶対にやめましょう

暴風や突風にあおられて転倒する危険があります。

外出は控えましょう

大雨や強風による事故に巻き込まれないように、なるべく外へ出ないようにください。特に夜間は外出を控えてください。

日ごろからの備え

家庭での備え

水害は身近で起こる災害です

豪雨や台風などにより、全国的に水害が起こるようになってきています。日ごろから建物や周囲の点検や修理などの対策を行っておきましょう。

家の周囲の安全対策

台風や大雨の前に家の周囲の不良箇所がないか確認し、必要に応じて修理しましょう。

雨どいに破損がないか、落ち葉や土砂の詰まりがないか確認する。

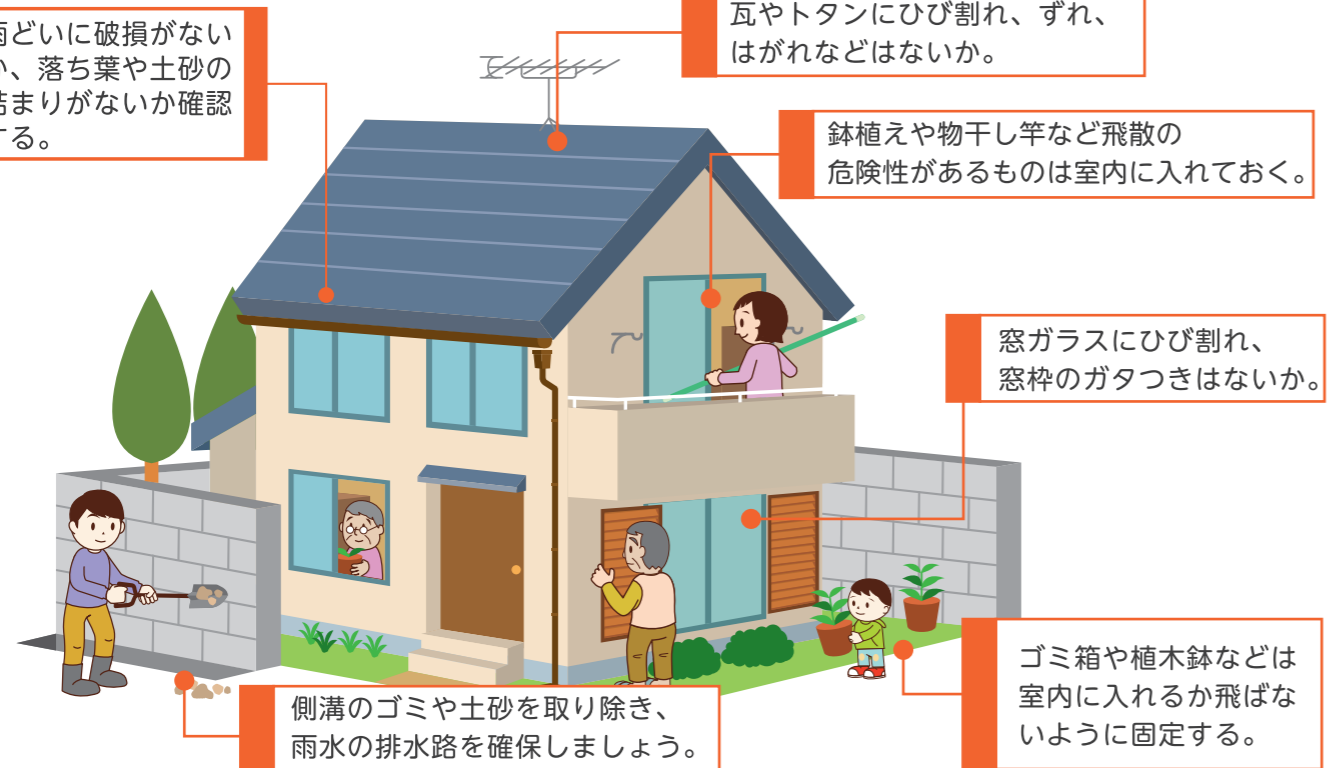
瓦やトタンにひび割れ、ずれ、はがれなどはないか。

鉢植えや物干し竿など飛散の危険性があるものは室内に入れておく。

窓ガラスにひび割れ、窓枠のガタつきはないか。

ゴミ箱や植木鉢などは室内に入れるか飛ばないように固定する。

側溝のゴミや土砂を取り除き、雨水の排水路を確保しましょう。

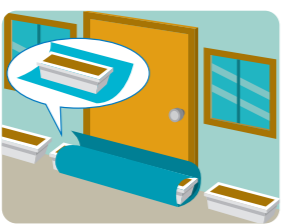


家庭でできる水害対策

小規模な 10cm 程度の浸水であれば、土のうを設置することで家への浸水を十分に防ぐことができます。土のうがなくても、水のうやゴミ袋、プランターなどの身近なものを使って水が建物へ侵入するのを防ぎましょう。

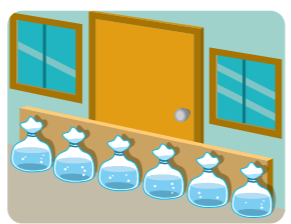
プランターとレジャーシートによる止水

土を入れたプランターを、レジャーシートで巻き込み、玄関の止水に使用することができます。



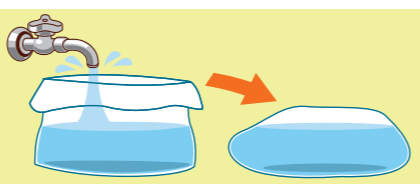
水のうと板による簡易止水板

玄関などの出入り口を長めの板などでふさぎ、水のうで固定すると浸水を軽減できます。



簡易水のうの作り方

家庭で使用しているゴミ袋（40ℓほどで持ち運べる程度）を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めると完成です。



災害に「備える」

浸水の危険性の確認（水害ハザードマップ）

大雨が降ったらどうなるか知っておきましょう

災害から命を守るためには、身のまわりにどんな災害が起こる危険性があるのか、どこへ避難すればよいか、事前に備えておくことが重要です。

大和郡山市・水害ハザードマップについて

次のページからの水害ハザードマップは河川のはん濫による浸水の可能性や、土砂災害による被害の可能性を示し、住民のみなさんの生命を守るための避難行動につなげていただくために作成したものです。家族や地域住民の方々と情報を共有し、水害による被害の軽減に役立てましょう。

浸水想定について

この水害ハザードマップに記載した浸水想定は、想定最大規模降雨（12時間総雨量 316mm）が降った状況で、もし堤防の決壊などにより河川がはん濫した場合にどうなるかをシミュレーションにより求めたものです。想定される最大の被害状況を示しているため、雨が降ったからといって地図上に示してあるすべての範囲が一度に浸水するものではありません。このマップは大和川、佐保川の国管理区間と、大和川、佐保川、富雄川、秋篠川、地藏院川、高瀬川、布留川、能登川の県管理区間の浸水想定区域図を重ね合わせたものを示しています。これ以外の河川や水路などははん濫、想定を超える降雨、内水はん濫などは考慮しておりません。

このマップの浸水想定区域に示されていない区域においても浸水する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

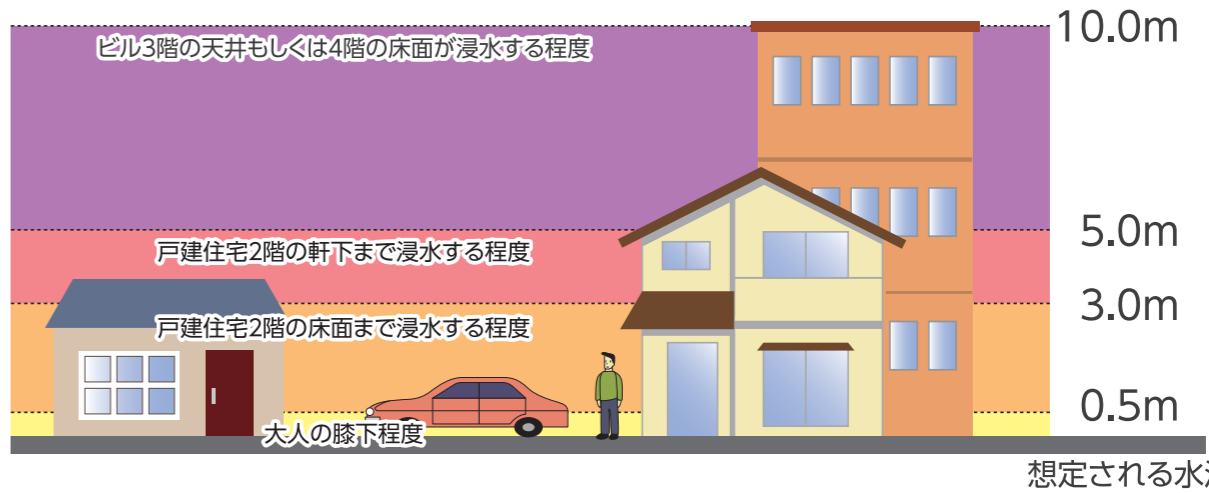
【役立つ！検索ワード】

大和川水系 浸水想定区域図 🔍 検索

奈良県 洪水浸水想定区域図 🔍 検索

想定される浸水深と避難行動の心得

浸水が想定されている区域内では、上流域も含めた雨量や河川の水位情報等を早くから収集し、大和郡山市からの避難情報等にも注意しながら、浸水が始まる前には必ず安全な場所に避難が完了するよう心がけてください。また、予想を超える雨や洪水が発生した場合には、浸水範囲が想定を超える場合もあるので注意が必要です。



※浸水深0.5m以上では屋外での避難行動が困難になります。